

ご紹介いただきました、八街市教育委員会教育長の加曾利佳信でございます。

千景黎明高等学校「安全と平和を祈る日」集会にあたり、平成十八年、十九年に尊い命を交通事故で失われたお二人の生徒様、また先の大戦で日本の平和を祈りつつ無念にも亡くなられた百十六名の千景黎明高等学校 O.B. の皆様の御霊に、八街市教育委員会を代表しまして謹んで哀悼の誠を捧げます。

今、私たちは生きています。ここに参集の皆様には「いのち」があります。

さて、その「いのち」とは何でしょうか。私たちは幼い頃から「いのち」は大切なものであり、かけがえのない大切なものであると教えられてきています。人間として最も大切にしなければならぬもの、それが「いのち」であると。

それではいったいどのような大切にしていけば良いのでしょうか。次のような話しを聞いたことがあります。

百歳を超えても、なお医学界の発展に寄与されている医師、日野原重明先生は 子供たちに「いのちとは何か」を次のように説明するそうです。

「いのちはどこにあるでしょう。（多くの小学生は心臓を指さします。そして先生は続けます）

心臓がいのちではありません。心臓は酸素や栄養を含んだ血液を脳や手足、そして内臓に送り届けるポンプです。

生きるために大切な臓器だけれども、いのちではありません。いのちとは、私たちが自由に使える時間なのです。

いのちも時間も、目には見えないけれど使う事が出来ます。
時間を使う事でいのちが形となります。

肝心なのは、自分のいのちである時間を有意義に使う事です。」このように日野原先生は説明されるそうです。

自分が持つている時間がいのちだそうです。私たちはかけがえない大切ないのちを削りながら時を過ごしているのです。今この時も私たちはいのちを使っているのです。

将来に夢と希望を持ち、自分の持てる能力を發揮しようとする一時間も、何となく流れていく一時間も同じ一時間のいのちということです。

今生きている自分は、世界中にたった一人しかいない唯一無二の存在です。その自分を見つめることは、人をよく知り、自分の良さを認めることから始まります。今生きている自分の存在をしっかりと認め、今生きている自分のかけがえのないことを理解することで他者の存在を尊重することになるのです。

どうか皆さん、今日の「安全と平和」集会という時間を共有したことを大切に、今まで以上に自分や周りの人たちを愛し、一層安全で平和な社会、一人一人が尊重される社会を築いていきたいと思います。

平成二十六年五月一日

八街市教育委員会 加曾利佳信